

# 町史のより

## 小須戸校史(八十年)

### 明治七年

#### 小須戸校建築

「小須戸校沿革史」に、明治七年ニ至リ町内住吉神社ニ地ニ校舎ヲ建築ス校舎ハ四間ニ、拾間、二階造ニシテ經費三百二十円ナリトある。それ以上の詳しい記入はないが、幸い新潟県立図書館所蔵の川村文書の中に、明治七年、小須戸校建築の關係文書が残っている。大工は出戸村 今井栄吉

上記写真は戸長川村四衛の上甲文書の自筆下書きである。第七中学第六番小学校新造場所小須戸町撰社境内借地造営之儀六年癸酉何月中願之通御聞届ト罷成候就ては

安かったので、「余米金」の中から出費したいと、県権参事南部信近(今の副知事)へ宛てた文書である。届てなく願になっ

#### 見積額は百八拾八円

見積り文書として 請家造営證文之事 金百八拾八円也 請家建前并建具戸障子悉皆造作積立高

明治五年十一月開学以来、鶴出古木名主野氏宅及び了泉寺を借館していた小須戸校は「文部省・明治七年々報」によると、生徒数男二二七名・女一名(寛路津・出戸の附属校を含む)に達し、いよいよ独立校舎建築にかかるところは住吉神社境内(現二番町)。建築資金は国・県の補助など何も無い。財源は明治六年度の官への貢米中より一定量の米を割いてもらう「余米制」をとった。(次号に詳記)責任者は戸長川村四衛、小学世話係田巻貞太、藤宮徳左衛門である。入札させたところ、出戸村の大工今井栄吉が、およそ二百円で一番

として、計金貳百五拾八円八拾九錢五厘となり、テイル(生徒机・椅子)も全部収納して、翌八年四月に清算された。左記写真は、生徒机の今井栄吉の設計図である。

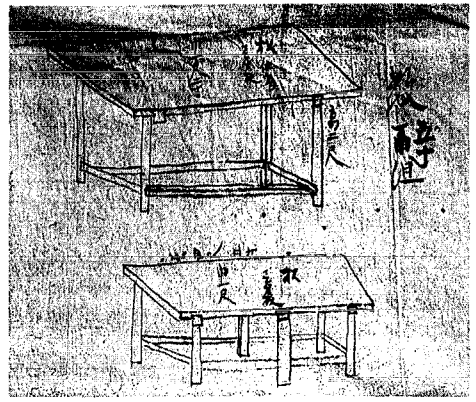
#### 小須戸校本校永遠維持之方法議案

学区独自で建てた学校。関係者の喜びも一入であったが、それだけ今後の経営が問題になってくる。そのことを示す文書が、表記の議案である。

第一条 一本校校舎位置之方法(注・枝校とは附属校のこと) 此ノ儀本校校トモ位置現今ノ場所ニ決定スル尚不足地ハ長海寺境内御私下ヶ願イ本校敷地ニ致度協議ノ事

今後の生徒増を見込んで、隣地の長海寺の境内を払い下げてもらうことを考えている。

第二条 三条に、今後は、学校の学校経費に困難のため、諸経費、



生徒机(ていぶる)の設計図